

「読んで書く」ことの練習問題：原文＋ポイント部分

学んで味わう生きる意味

本来、「学ぶ」という行為には、どんな意味があるのでしょうか。

このことを考えるために、みなさんに一つ質問をします。私たちは、何も学ばずとも生きていくことができる状況であれば、学ぶ必要はないのでしょうか。

例えば、生まれた家が大金持ちで、一生働かなくても生きていける場合はどうでしょう。毎日、美味しいものを食べてごろごろしていても生きていける。「あなたは何もしなくても生きていけるから、何も学ばずに寝ていればいいのよ」と言われたらどう思うのでしょうか。

そう言われて喜ぶ人は少ないと思います。何を学ぶこともなく、ただ生きている。きつと、退屈だと感じるでしょう。それはなぜでしょうか。

私たちは、学ぶことにより、喜びや幸福感、つまり「生きる意味」を味わうことができるからです。

何かを学び、何かができるようになっていくとき、上達していくこと自体がとても面白い。自分が成長しているという実感を持つことができる。

さらに、何かを学ぶことによって、人から必要とされるようにもなります。

「あいつは本に詳しいから、聞いてみよう」「あの人は料理が上手だから、教えてもらおう」と、頼りにされる。何かを専門的に学ぶことによって、専門性を持って世の中に関わることができ、自信が持てるようにもなります。

そこで得られる充実感と喜びが、生きる意味を感じさせてくれます。

「学ぶ」は、「生きる」だけでなく、私たちの「生きる喜び」「生きる意味」にも密接につながっているのです。(614字)

(齋藤孝：人生が面白くなる学びのわざ。NHK出版；2020。p.12-13.)

「読んで書く」ことの練習問題：要約例

学んで味わう生きる意味

「学ぶ」という行為にはどんな意味があるのか。「何も学ばなくていい」と言われて喜ぶ人は少ないだろう。私たちは学ぶことで、喜びや幸福感といった「生きる意味」を味わうことができる。学びによって上達することは面白く、自分の成長を実感できる。また、学びによって人から必要とされ、専門性を持って世の中に関わることは、自信にもつながる。学ぶことは、私たちの「生きる喜び」や「生きる意味」に密接につながっている。(198字)